大規模災害協定に基づく連絡会（大島ブロック）議事録

場　所：大島支庁本館　4F大会議室
期　日：令和 元年5月16日（木）13：30～

参加者：	大島支庁	上大田 建設部長、藤田 建設課長
		中山 技術補佐(兼)道路維持係長、笠井 道路建設係長
		中津川 河川港湾第一係長、東 技術主幹(兼)河川港湾第二係長
		佐野 技術主幹(兼)技術調整係長
		若松 技術主査、園田 土木技師
	瀬戸内事務所	用皆 建設課長、大迫 技術補佐(兼)道路第一係長
	喜界事務所	後藤 建設係長
	徳之島事務所	加藤 建設課長、竹下 河川港湾係長
	沖永良部事務所	浜村 建設課長、川路 技術主幹(兼)港湾漁港係長
	測量設計業協会	安永 会長
		連絡責任者（正）久永コンサルタント　福留、里
		連絡責任者（副）大亜測量設計　西川、有村

会議資料

- 出席者名簿
- 座席図
- 災害支援協力のフロー図　P1
- 支援協力に関する連絡体制（１／２）　P2
- 大規模災害時における情報連絡網　P3 ～
- 応援支援協力に関する連絡体系図　P9
- 大島支庁管内の公共土木施設等の状況について　P11
- 支援協力に関する協定書等　P13 ～
- 支援協力に関する協定（経緯）　P31

議　事

【進行役　大島支庁　佐野 技術主幹(兼)技術調整係長】

1.　**開会あいさつ**

（大島支庁　上大田建設部長）

本日は、大規模災害時の支援協力に関する連絡会に安永会長をはじめ関係の皆さま多数参加して頂き、奄美までお越し頂きありがとうございます。

奄美は、沖縄に先んじて梅雨に入りました。これから台風の時期、秋雨前線の時期と気の抜けたい時期が続くところであります。本日は万が一の備えのために連絡体制、支援協力の範囲を確認させて頂きたいと思っております。

また、色々とご支援、ご協力頂く場面があると思いますが、引き続きよろしくお願いいたします。

２．　**議題**

(1) 令和元年度の連絡体制について

① 大島支庁の連絡体制について

（大島支庁　若松技術主査）

・資料 P1：資料に基づき大規模災害発生時における支援協力のフローを説明

・資料 P2：資料に基づき大島支庁管内の連絡体制について説明

・資料 P3～7 に基づき大島支庁管内の各事務所における情報連絡網を説明

② 測量設計業協会の連絡体制について

（測量設計業協会　大亜測量設計　西川）

・資料 P9：測量設計業協会の大島ブロックにおける連絡体系図について説明

(2) 大島支庁管内の公共土木施設等の状況について

（大島支庁　園田土木技師）

・資料 P11：大島支庁管内における［道路］［河川］［砂防］［海岸］［港湾］［漁港］の施設状況について説明

(3) 支援協力の範囲及び災害時の被害状況調査の内容について

① 協定書・実施要領・留意事項について

（大島支庁　若松技術主査）

・資料 P13：「大規模災害時における被害状況調査の支援協力に関する協定書」について抜粋して説明

・資料 P15：「大規模災害時における被害状況調査の支援協力に関する協定に係る実施要領」について抜粋して説明

・資料 P19：「大規模災害時における被害状況調査の支援協力に関する協定の運用に係る留意事項」について説明
・資料 P21～30：各種帳票の様式について説明

② 大規模災害時の支援協力に関する協定（経緯）について
・資料 P31：過年度における支援協力要請、H23 以降の支援協力連絡会、災害対応講習会の開催実績に関して説明。

(5) 質疑応答
（大島支庁　上大田建設部長）
災害対応講習会は、CPD の対応講習となっているか？

（測量設計業協会　安永会長）
開催当初から CPD 対応の講習会となっています。
H31 年 4 月 16 日災害対応講習会の受講者は、700 名と前年度に比べて若干減少していますが、エントリーは 760 名となっていました。そのうち 60 名は、我々上部団体の九州地区協議会の宮崎と熊本県所属の会員です。鹿児島県内所属の参加者が 700 名ということです。

(6) 意見交換会
（測量設計業協会　安永会長）
緊急性を要する災害業務については、見積りによる随意契約の活用をお願いします。
また、管理技術者の有資格条件の緩和も併せてお願いします。

（大島支庁　上大田建設部長）
「大規模災害時における被害状況調査の支援協力に関する協定の運用に係る留意事項」の 7 項の取り扱いについて確認願います。

（測量設計業協会　安永会長）
当時の留意事項を取り交わした県の技術管理課と調整し、今後の状況から判断します。

3．　閉会あいさつ
（測量設計業協会　安永会長）
ここ数年は、毎年九州において大規模災害が発生しています。
先日、宮崎では地震が発生し、雨だけでなく様々な災害が起こりうる可能性があると認識しています。備えあれば憂いなしということで、何事も準備をしていれば対応できる。準備をしていても半分しか対応できないということも認識しています。
毎年同じような内容でご足労頂いていますが、万が一の時に備えてということで認識して頂ければありがたいと思います。今後共よろしくお願いいたします。

―以上―